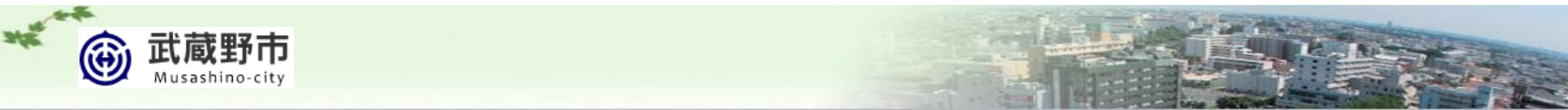


1. 市の基本的な考え方に記載された評価の手法

- 来館者数は一つの評価基準であり、総合的な評価基準ではない。
- 活動の結果から生じる**市民生活への波及効果を定量的に把握し、**価値判断を加える**ソーシャルインパクトの評価手法**を用いる。
- 様々な事業の結果、SDGsにどのくらい貢献し、より良い社会になったかを見える化し、その効果を**SDGsへの貢献度**で評価。
- 学習の過程で生徒が作成したものを保管するポートフォリオ（ファイルフォルダに集められた資料や情報）を使った評価。個人の変容を質的、総合的に評価するため、**個人が変容し、行動につながったことまで評価が可能。**



2. 評価にあたって考慮したい点

●開設時は行動変容等の取り組みの結果だけでなく、行動変容を起こすための働きかけが適切にされているかを見ていくことも必要。
(例えば、下表のエコプラザ(仮称)の機能が発揮されているかなど)

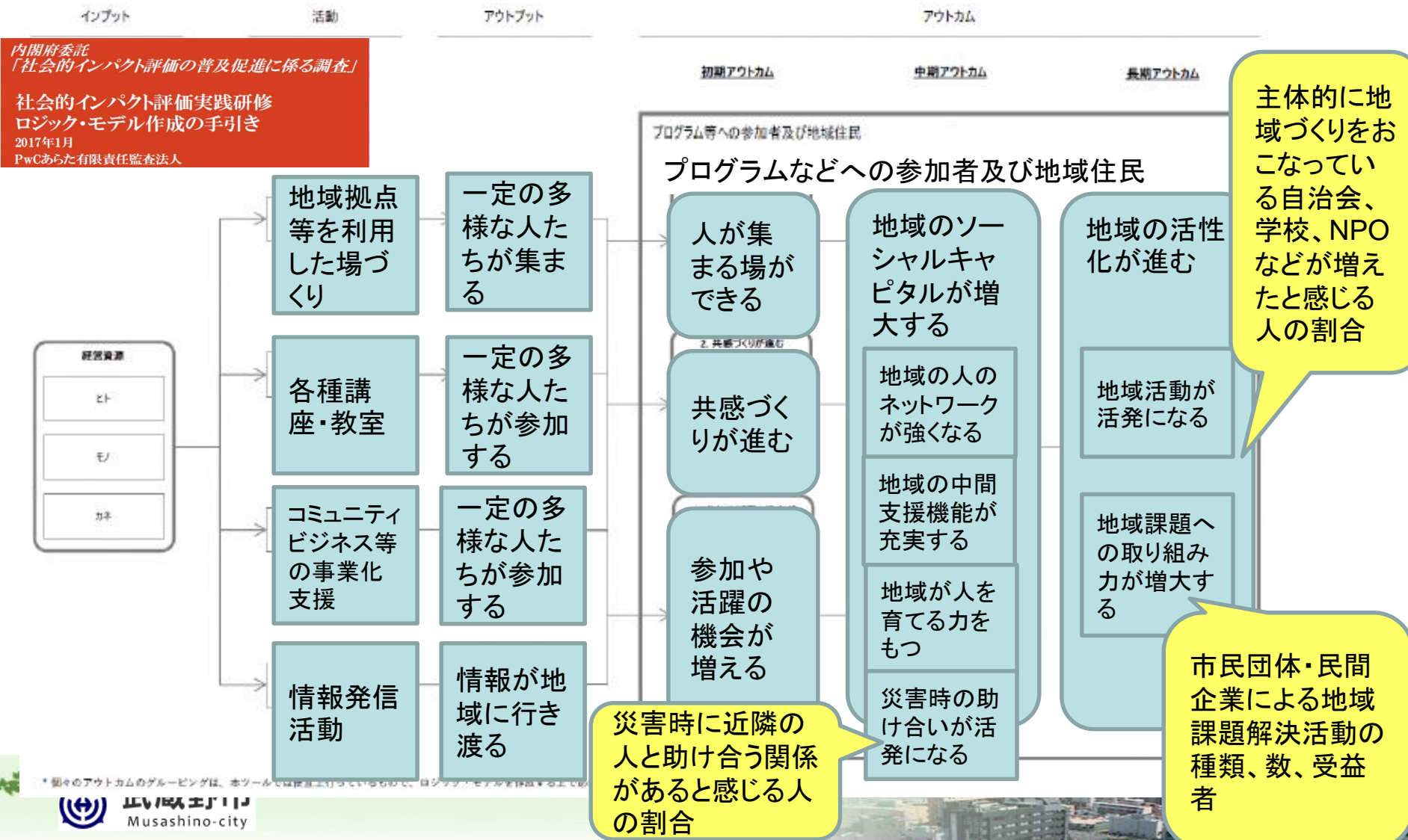
機能	重要な要素
知る	情報の一元化・体系化
	アーカイブ化
	情報伝達のノウハウ
学ぶ 学び合う	展示
	参加・体験・体感
	行動・活動・探究・創造
	ESD
はぐくむ 育てる	環境への興味・関心をはぐくむ
	活動を育てる
つなぐ	環境分野をつなぐ
	人と人をつなぐ
	世代をつなぐ
支える	相談
	支援

※連携会議及び連携会議運営スタッフとの評価に関しての協議では、行動変容について深く考えていくことに加え、施設の基本理念にある「地域力の向上」や「まちづくりとの連携」なども、評価の対象として重要との意見が出されている。

※今年度は、感染症拡大防止の観点から集客事業は行わず、情報発信機能に特化していることを考慮して評価する必要がある。

参考：ソーシャルインパクトの評価手法

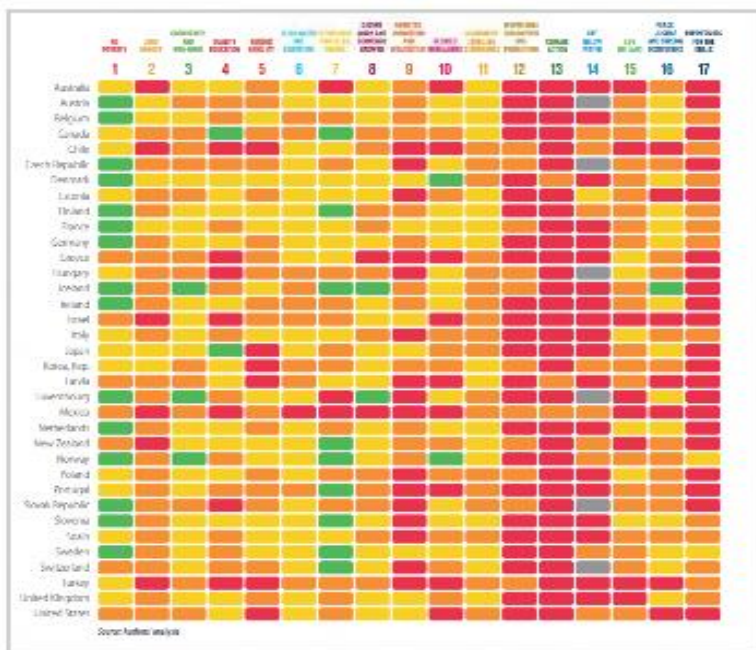
●地域やまちづくりにおける“ロジックモデル”の事例の一部。活動によって生まれる成果を何で評価するかが個別に設定されている。



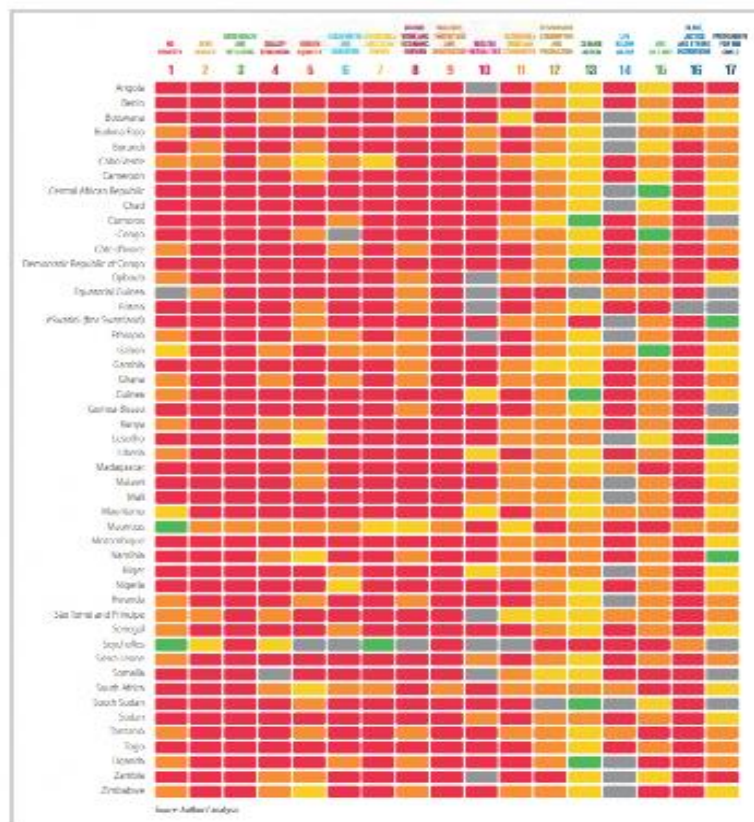
* 図中のアウトカムのグルーピングは、本ツールでは任意で行っているため、ロジックモデルを修正する上で

参考：SDGs達成度

- 下表は、NGOによって国別SDGs達成度が色分けして表示されているもの。エコreゾートでは、取り組みの範囲や達成度合いを17分野のSDGsの目標や169のターゲットで経年的に見ていくことが想定できる。



OECD 各国



アフリカ



参考：ポートフォリオ・行動変容

- 催しの参加者等へのヒアリングなどにより、同一人物の変化を捉えたり、無作為抽出による市民アンケート調査を行ったりすることで、環境に配慮した行動の経年変化を捉えることが想定できる。

エネルギー・資源	1 省エネルギーを実行している
	2 自然エネルギーや省エネ家電の導入を行っている
	3 環境に配慮した買い物をしている
	4 ごみの分別を徹底し資源化している
	5 4Rを実践している
交通・健康	6 自動車の利用を控え、環境負荷の少ない交通を利用している
	7 環境に配慮した自動車の使い方をしている
	8 化学物質の使用を控えている
	9 汚れた水を流さないようにしている
自然	10 節水や水の再利用をしている
	11 川や水路、湧水地などを守っている
	12 雑木林などの身近にある里山に親しんでいる
まち	13 野生生物を守っている
	14 歴史や文化を守っている
	15 緑を増やし、育てている
活動・情報	16 まちの美化に協力している
	17 環境学習に参加している
	18 環境を良くするボランティア活動に参加している
	19 環境家計簿などをつけて改善への取組をしている
	20 事業者や行政と協力している

川越市 環境に配慮した行動チェックシート20
(市民編)より